（4） 産業・観光

島田市の就業者数は、第3次産業が増加傾向にあり、第1次産業は減少、第2次産業は横ばい傾向である。また、平成 27 年国勢調査によると、製造業に就業する人が就労人口の 29%と最も多い。次いで卸売業・小売業、医療福祉、建設業、農業林業が多い。

吉田町の就業者は、第3次産業が増加傾向にあり、第1次産業は減少、第2次産業は横ばい傾向にある。平成 27 年国勢調査によると、製造業に就業する人が就労人口の 40%と最も多い。次いで卸売業・小売業、建設業、運輸郵便業が多く、農業・漁業等の第1次産業に従事する人は全体の 4%程度と少ない。

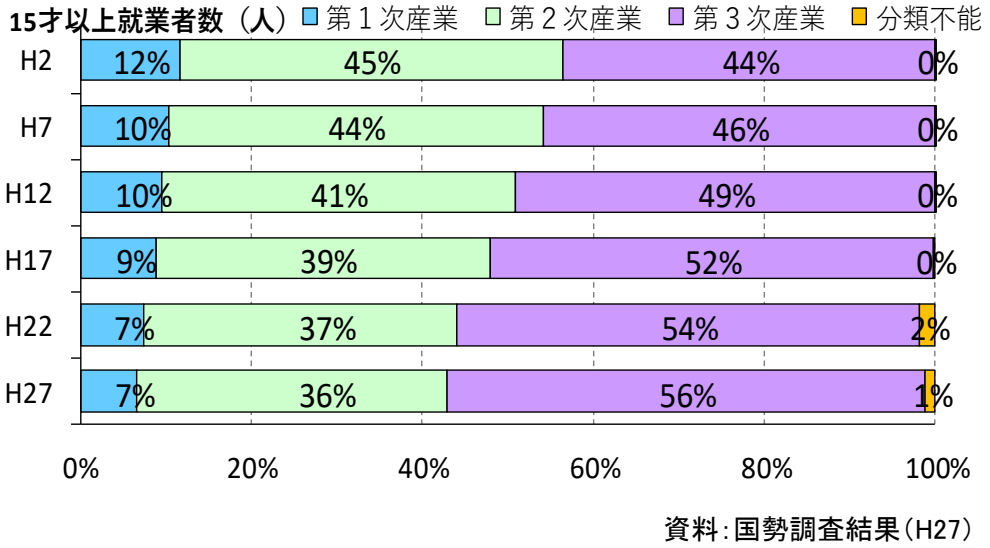


図 1-11　島田市の産業大分類別就業人口割合の変遷

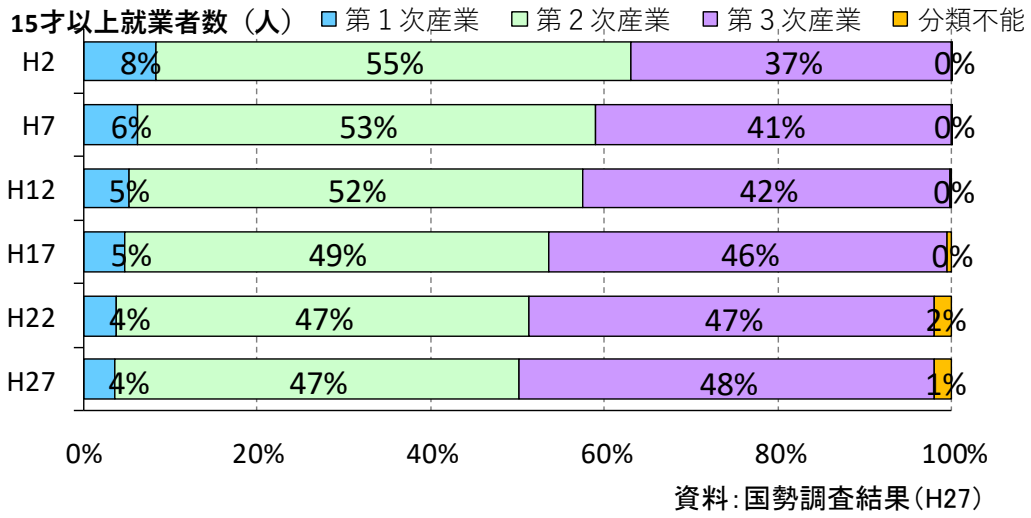
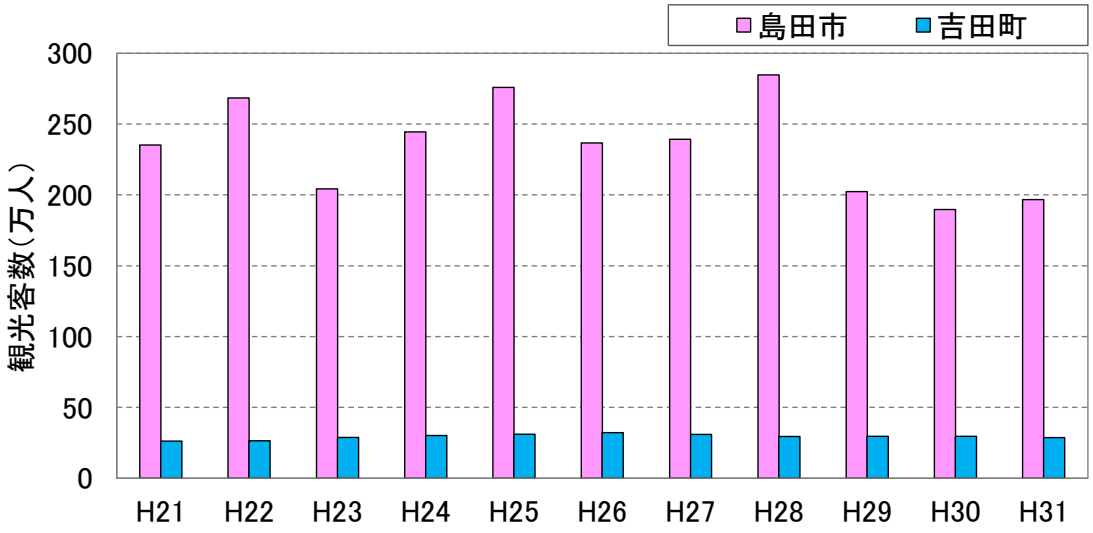


図 1-12　吉田町の産業大分類別就業人口割合の変遷

島田市を訪れる観光客数は、増減はあるものの、250 万人前後で推移しており、3年に1回開催される島田大祭には、多くの観光客が来訪する。流域に隣接する牧之原台地には平成 30 年 3 月にふじのくに茶の都ミュージアム（島田市内）が開館した。また、地域のイベントとしておせん女踊りが毎年開催されている。

吉田町を訪れる観光客数は、近年は約 30 万人となっており、宿泊客数・観光レクリエーション客数ともに横ばいである。吉田町内では、毎年、港まつり花火大会や小山城まつり、凧あげまつりやチューリップまつり等が開催され、観光名所としては、県営吉田公園や展望台小山城等がある。

上流域では、平成 21 年6月に富士山静岡空港が開港し、同地域は静岡県の空の玄関口としての役割も担うようになった。



出典：静岡県 HP

図 1-13　観光客数の推移

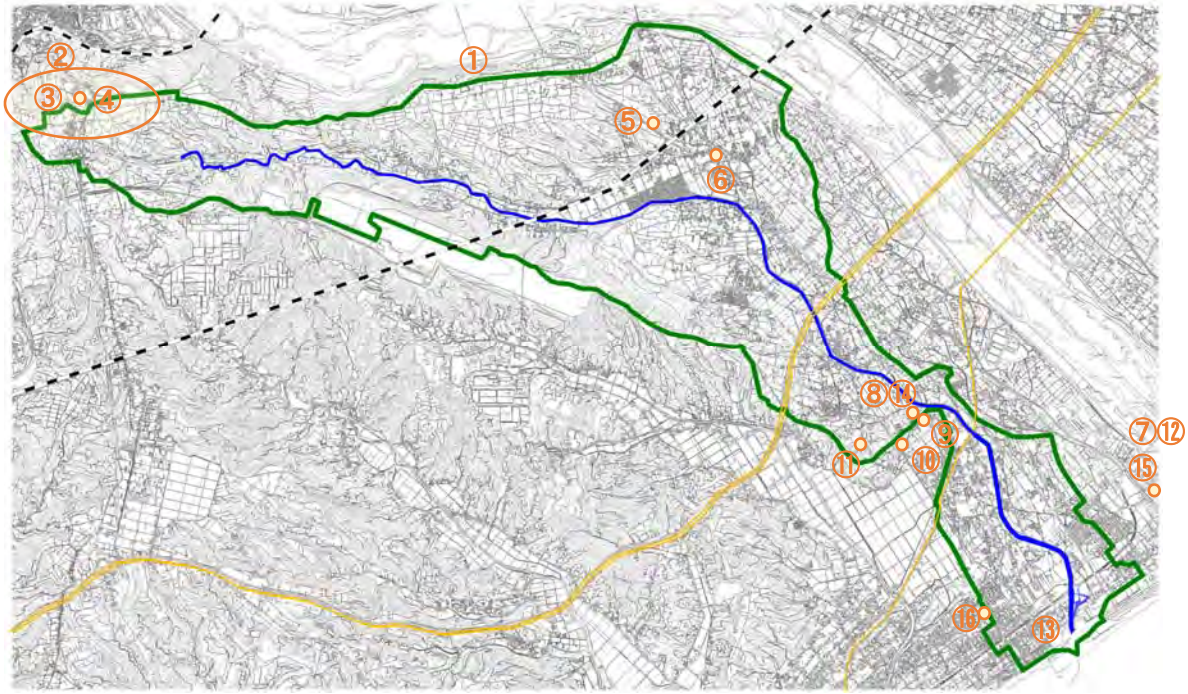


図 1-14 観光名所

表 1.1 流域内の観光名所・イベント

市町	種別	名称
島田市	観光名所	①蓬莱橋
		②牧之原大茶園
		③ふじのくに茶の都ミュージアム
		④牧之原公園
	イベント	⑤おせん女踊り
		⑥初倉まつり
吉田町	観光名所	⑦県営吉田公園
		⑧展望台小山城
		⑨能満寺
		⑩林泉寺の長藤
		⑪萬年のサツキ
	イベント	⑫凧あげまつり
		⑬港まつり花火大会
		⑭小山城まつり
		⑮チューリップまつり
		⑯住吉神社　夏季祭典

蓬莱橋

牧之原大茶園

ふじのくに茶の都ミュージアム

図 1-15 観光スポット（島田市）

小山城まつり

住吉神社夏季祭典

凧あげまつり

港まつり花火大会

図 1-16 流域内のイベント（吉田町）

展望台小山城

能満寺

図 1-17 観光スポット（吉田町）

(5) 主要交通

流域の一部に富士山静岡空港が整備され、平成 21 年 6 月に開港し、空の玄関口となっている。

主要な道路として、東名高速自動車道が流域の中央を横断し吉田インターチェンジが位置している。下流域では、国道 150 号および国道 150 号バイパスが北東から南西に向けて流域を横断している。

富士山静岡空港へは、吉田インターチェンジから県道の島田吉田線、住吉金谷線、静岡空港線を経由するルートで接続するなど幹線道路のネットワークが構築され、沿線では今後も更なる市街化が予想されることから、これらのルートは、流域を含む榛南地域の生活に密接に関連した重要路線としてだけでなく、産業・経済、物流、観光等の様々な交流を促す基軸として交通ネットワークの利便性の向上とともに地域発展がますます期待され、それにより、湯日川流域においては、今後も更なる市街化が予想される。

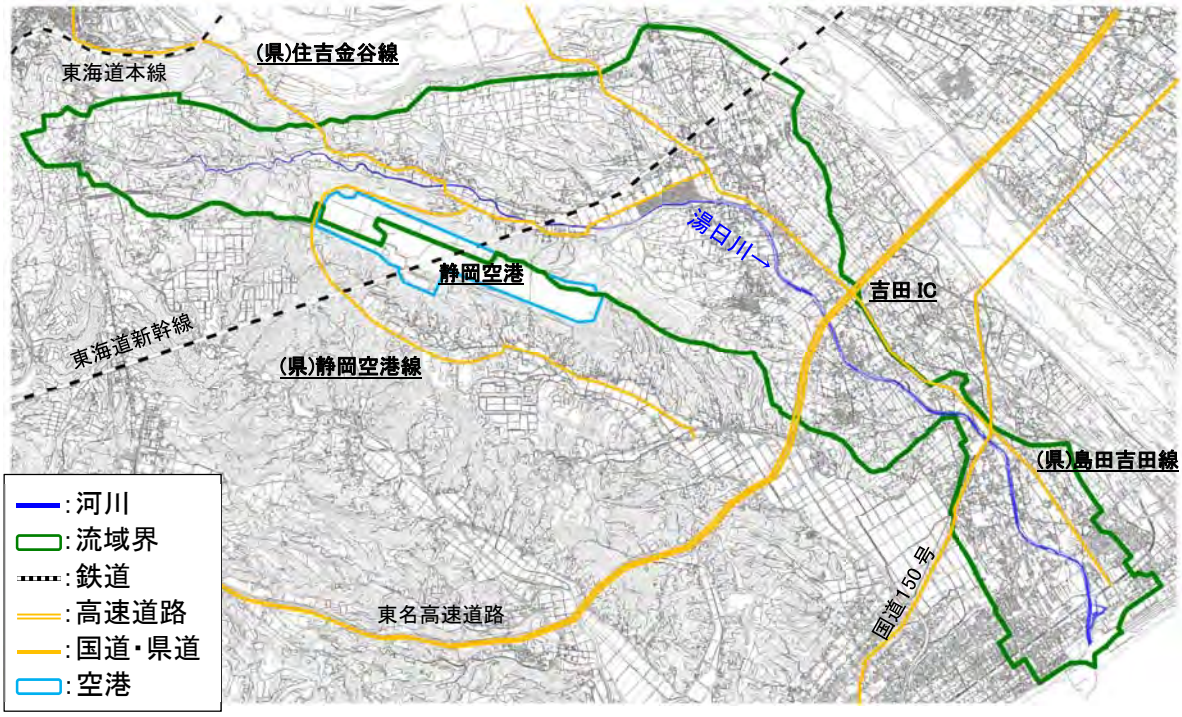


図 1-18　流域の交通網

図 1-19　富士山静岡空港（全景）

図 1-20　富士山静岡空港（ターミナルビル）

(6) 流域の歴史・文化

① 流域の歴史

湯日川流域への入植は縄文時代に遡ると言われている。大井川の氾濫に悩まされながらも、飛鳥時代には条里制による農地整備や江戸時代には新田開発などを行う一方で、舟運や漁業(養鰻業)も営まれてきた。日本書紀において、島田市阪本付近より巨木を切り出し近畿方面に送られたという記述が見られ、現在の湯日川を利用したと考えられている。律令時代においては島田市初倉・色尾付近には国司参内のための街道や宿場・馬屋があったと考えられている。鎌倉時代に能満寺が建立、戦国時代に遠江をおさえる第一歩として武田氏がこの地に砦を築き、城郭を備えたのち「小山城」と名付けられた。

②流域の文化財

湯日川流域を含む周辺には、鎌倉時代に亀山天皇の許可を得て建立された能満寺の天然記念物であるソテツや小山城址など史跡・古墳が 8 箇所存在する。

図 1-21　能満寺のソテツ

図 1-22　小山城址

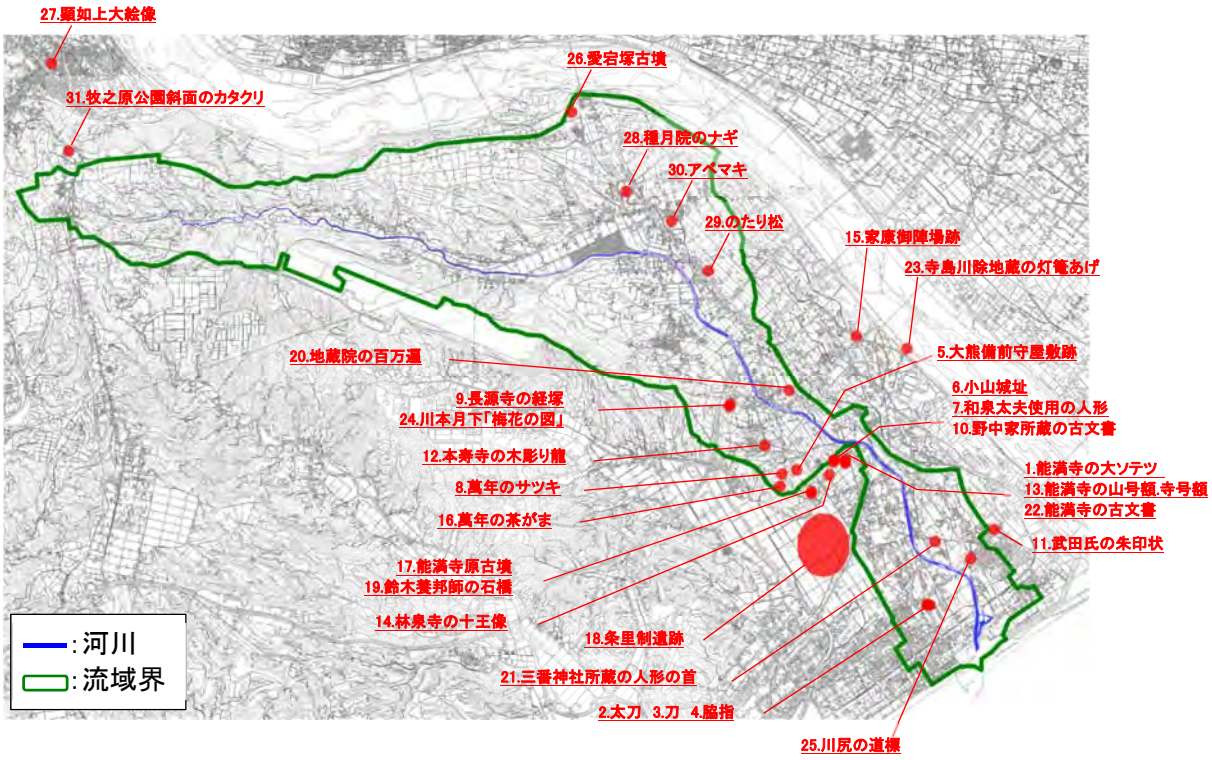


図 1-23 文化財等一覧

表 1.2 文化財等一覧

指定	No.	種別	名称	指定	No.	種別	名称
国指定	1	天然記念物	能満寺のソテツ	吉田町指定	17	古墳	能満寺の原古墳
県指定	2	工芸	太刀		18	史跡	条里制遺跡
	3	工芸	刀		19	史跡	鈴木養邦師の石橋
	4	工芸	脇指		20	行事	地蔵院の百万遍
吉田町指定	5	史跡	大熊備前守屋敷跡		21	工芸	三番神社所蔵の人魚の首
	6	史跡	小山城址		22	古文書	能満寺の古文書
	7	工芸	和泉太夫使用の人形（その墓の関係文書）		23	行事	寺島川除地蔵の灯篭あげ
	8	天然記念物	萬年のサツキ		24	絵画	川本月下「梅花の図」
	9	古文書	長源寺の経塚		25	建造物	川尻の道標
	10	古文書	野中家所蔵の古文書	島田市指定	26	史跡	愛宕塚古墳
	11	工芸	武田氏の朱印状		27	絵画	顕如上人絵像
	12	工芸	本寿寺の木彫り籠		28	天然記念物	種月院のナギ
	13	工芸	能満寺の山号額・寺号額		29	天然記念物	のたり松
	14	工芸	林泉寺の十王像		30	天然記念物	アベマキ
	15	史跡	家康御陣場跡		31	天然記念物	牧之原公園斜面のカタクリ
	16	工芸	萬年の茶がま				

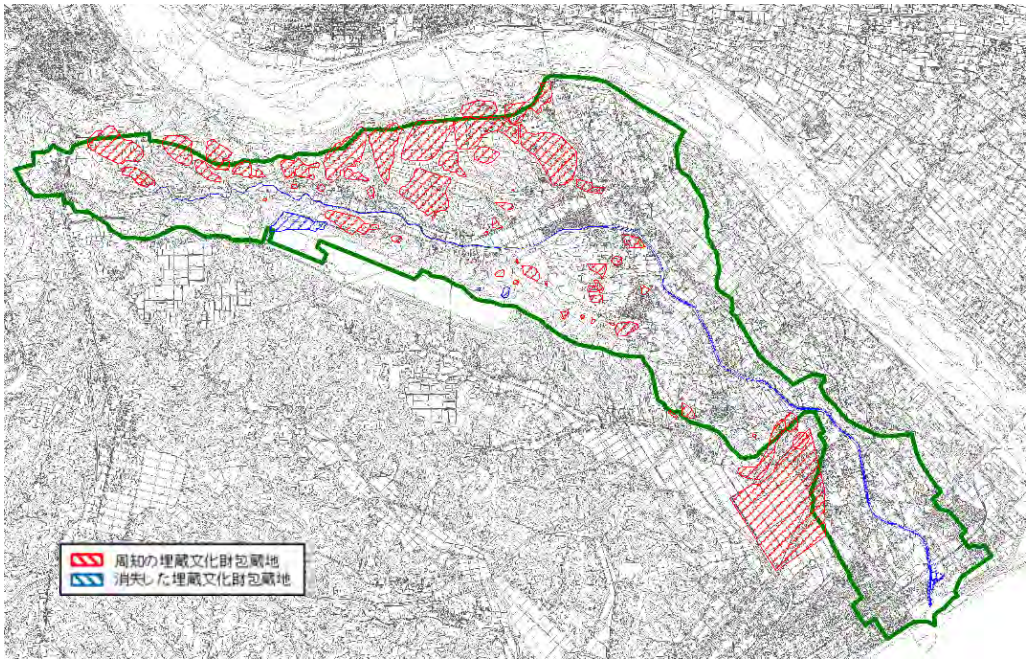


図 1-24　埋蔵文化財指定箇所

② 河川改修の歴史

湯日川流域では、昭和 12 年、13 年の大洪水を契機として、昭和 15 年度より、河口から島田市鶴ヶ谷地先までの築堤、掘削等が行われた。また、昭和 57 年 9 月洪水では浸水家屋 900 戸の被害が生じたことから、上流の島田市吹木地先から島田市下湯日地先までの築堤、掘削が行われた。その後、富士山静岡空港の建設に伴い平成4年から平成 17 年にかけて島田市内の元水橋から吉田町神戸地先の区間において築堤や河道拡幅などの整備が行われた。

(7) 治水事業の沿革

① 過去の水害の実績

流域内で過去に最も被害が大きかった洪水は、昭和 57 年 9 月 6 日にグアム島の西南西の海上に発生し、御前崎の西方に上陸した台風 18 号による洪水であり、菊川牧之原観測所(気象庁)で1時間雨量 91mm、総雨量 628mm を記録し、900 戸の浸水被害が発生した。また、近年では、静岡県をはじめとした東日本に甚大な被害をもたらした令和元年 10 月の台風 19 号による洪水において 30 戸の浸水被害が発生したほか、河川施設における被害として、平成 16 年 10 月洪水(台風 22 号)と令和元年 10 月洪水(台風 19 号)において下流部の中川原橋付近で堤防護岸の洗掘被害が発生した。

平成に入ってから発生した家屋被害を伴う洪水は 5 洪水(いずれも内水による被害)で、被害最大の洪水は平成 25 年 4 月洪水(床上 1 戸、床下 42 戸、合計 43 戸)となっている。

地震による津波被害については、嘉永7年に南海トラフ沿いの沖合域を震源とする安政東海地震(マグニチュード 8.4)が発生し、東海地方から紀伊半島南東部にかけての太平洋沿岸部で甚大な被害が発生した。吉田町の海岸では5～6mの津波が襲ったとの記録が災害史に残っている。

表 1.3 過去の水害実績

発生年月日	気象名	浸水家屋（戸）	浸水家屋（戸）		1時間雨量		2時間雨量		備考
			床上	床下	雨量（mm）	確率評価	雨量（mm）	確率評価	
昭和13年8月2日～3日	豪雨	不明	―	―	34	1/2以下	53	1/2以下	御前崎雨量
昭和52年5月11日～21日	豪雨と風浪	15	0	15	37	1/2以下	－		水害統計
昭和57年9月10日～13日	豪雨と台風18号	70	12	58	91	1/60程度	162	1/100程度	被害調書(島田市)
		900	不明						AB表記載
平成14年7月10日～11日	梅雨前線豪雨と台風6号	1	0	1	31	1/2以下	52	1/2以下	水害統計
平成16年10月8日～9日	台風22号及び豪雨	25	0	25	49	1/3程度	79	1/3～5	被害調書(吉田町)
平成16年11月11日～12日	豪雨	3	0	3	87	1/80程度	116	1/20程度	被害調書(吉田町)
平成25年4月6日～7日	豪雨	43	1	42	63	1/10程度	105	1/10～20	被害調書(吉田町)
令和元年10月11日～12日	台風19号	30	10	20	48	1/3程度	87	1/5程度	被害調書(島田市・吉田町)

注)雨量はS13.8洪水は御前崎(県)、S52.5洪水は榛原(県)、S57.9洪水は菊川牧之原(気)、その他の洪水は静谷(県)、被災家屋は被害調書を基本として整理。確率評価は静谷(県)の各種の確率雨量(N=42年間:S51～H29)より推定。

② 湯日川治水事業

湯日川では、中小河川改修事業として昭和15年度から岩留橋地点における計画高水流量を168m³/sと定め、河口から島田市鶴ヶ谷地先の約9.1kmの区間で築堤、掘削等の河川改修を行った。

昭和57年度より実施した災害復旧助成事業では、寺下橋地点における計画高水流量を130m³/sと定め、島田市吹木地先から島田市下湯日地先の約5.3kmの区間で築堤、掘削等を実施した。

その後、富士山静岡空港建設に伴う流出増加への対策として空港周辺に調整池が設置されるとともに、島田市内の元水橋から吉田町神戸地先の約4.1kmの区間において築堤や河道拡幅などの整備を実施した。

表 1.4 湯日川治水事業の沿革

河川名	事業名	年度	内容
湯日川	中小河川改修事業	S15～27	築堤・掘削等
	災害復旧助成事業	S57～	築堤・掘削等
	地方特定河川整備事業	H4～17	開発調整池整備、築堤、河道拡幅等

③ 津波対策事業

東海地震により発生が予測される津波対策として、平成2年度から耐震対策河川事業により湯日川水門を整備し、平成12年3月に完成した。その後、静岡県第4次地震被害想定(平成25年)に基づく対策として、水門の耐震補強工事を実施し、平成28年に完了している。

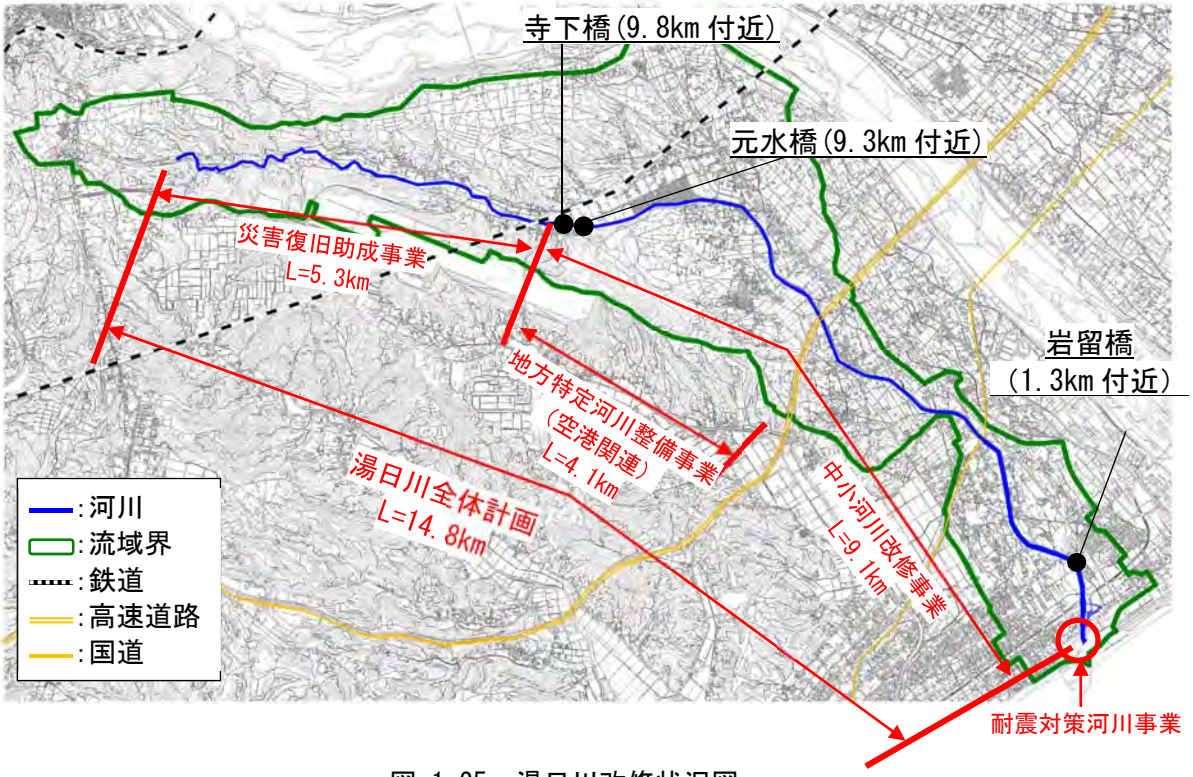


図 1-25　湯日川改修状況図

図 1-26　湯日川水門